

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望＝ドル円は114～115円台で堅調な推移か

〔2月7日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）		1月31日～2月4日			
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	115.42	115.59(31)	114.16(2)	115.01	-0.25
ユーロ・ドル	1.1150	1.1472(4)	1.1138(31)	1.1457	+0.0306
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,439.99	+722.65	日本10年債利回り	0.200	+0.029
ダウ平均株価	35,111.16	+385.69	米10年債利回り	1.831	+0.061
=====					

<来週の主要経済統計等>

7日 日本12月景気動向指数速報値

スイス1月雇用統計

独12月鉱工業生産指数

8日 日本12月勤労者世帯家計調査

日本12月経常収支・貿易収支

米12月貿易収支

カナダ12月貿易収支

9日 独12月貿易収支、独12月経常収支

10日 米1月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数

米1月財政収支

11日 独1月消費者物価指数

英第4四半期国内総生産（GDP）速報値

英12月鉱工業生産指数、英12月製造業生産指数、英12月貿易収支

スイス1月消費者物価指数

米2月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】ドルは底堅い地合いが継続しそうだが、一方で世界的な株安の影響で円買いの動きもみられる。このため、ドル円は底堅い動きが見込まれるものの、一方的に大きく上昇しにくいとみられ、ドル円は114～115円台で底堅い動きを継続するとした。

【3月のFOMCでの0.5%の利上げ期待が後退】

1月25～26日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）以降、米国では早期の利上げ観測が高まり、3月には0.50%の大幅な利上げを行うとの観測も一部では出ていた。そうした中、1日にブラード米セントルイス連銀総裁やハーカー米フィラデルフィア連銀の総裁が3月の0.50%の利上げには懐疑的な見解を示した。これを受けて3月の大幅利上げ観測が後退して、ドル売りの動きにつながった。

その後、3日に英中銀（BOE）が利上げに動き、欧州中央銀行（ECB）理事会後のラガルド総裁の記者会見を受けての年内利上げ観測の高まりなどを背景にポンドやユーロが対ドルで急伸した。ポンド円やユーロ円も大幅に上昇してドル円の支援材料となり、115円近辺まで戻している。

FRB当局者からは、今年4～5回の利上げを肯定する見解が相次いで出されており、市場でも年5回程度の利上げがコンセンサスとなっている。ドルが一時的に売られても大きく崩れる動きとはなりにくく、ドル円は114～115円台で底堅い推移を続

けるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、113.50～116.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、7日に日本12月景気動向指数速報値、8日に日本12月勤労者世帯家計調査、日本12月経常収支・貿易収支、米12月貿易収支、10日に米1月消費者物価指数、米新規失業保険申請件数、米1月財政収支、11日に米2月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【豪中銀は政策金利を据え置き、債券買い入れを終了】

1日に豪中銀（RBA）は政策金利を0.10%に据え置くとともに、量的緩和（債券買い入れ）を終了することを決定した。バランスシート縮小については5月の会合で議論するとしている。注目された利上げの時期については、明確な時期を示さず、不確実性を確認するために辛抱強く待つ準備があるとした。また、債券買い入れの終了は早期の利上げにつながるものではないとして、早期利上げ観測をけん制した。

2日に豪中銀のロウ総裁は、景気の動向次第では年内に利上げする可能性も出てくると発言した。従来は政策金利の引き上げは早くても2023年以降としていたが、今回の発言で利上げに対するスタンスが変わったとみられる。

豪ドル／ドル、豪ドル円は豪中銀の政策金利の据え置き発表後に売られたものの、その後は利上げ前倒し観測などを背景に堅調な推移を見せている。1月末にかけて売られた反動もあり、豪ドル／ドル、豪ドル円ともに戻り歩調で推移しそうだ。目先の予想レンジは、豪ドル／ドルが0.7050～0.7300ドル、豪ドル円が80.50～83.50円。

【英中銀は利上げ、ラガルドECB総裁はインフレへの警戒感を示す】

3日に英中銀（BOE）は政策金利を0.25%引き上げて0.50%にすることを決定した。利上げは2会合連続となる。昨年12月の英消費者物価指数は前年比+5.4%、コアも同+4.2%となり、ターゲットである2%や許容上限とされる3%をも大きく上回っており、インフレ抑制のために今回は利上げが確実視されていた。

バイラーBOE総裁も物価上昇と労働市場のひっ迫を利上げの要因としている。なお、利上げ幅に関しては9名のうち4名が0.50%の利上げを主張していたことが明らかになり、サプライズとなった。英中銀は利上げに加えて、社債購入の停止、および英国債保有の削減開始など量的引き締めへ舵を切った。

こうした動きを受けて、ポンドドルは1.35台半ばから1.36台前半へ、ポンド円は115円台半ばから156円台半ばへ、それぞれ急伸した。英中銀による今後の利上げやタカ派的な姿勢を背景にポンドは堅調な動きが継続するとみられる。目先の予想レンジは、ポンドドルが1.3550～1.3750ドル、ポンド円が155.00～157.75円。

3日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、金融政策の現状維持を決めた。ただ、その後の記者会見で、ラガルドECB総裁は、「インフレは予想より長く高止まりが続く」と警戒感を示した。これまでは年内の利上げを否定していたものの、今回は年内の利上げを明確に否定しなかった。これでECBが年内に利上げに動く可能性が意識されてユーロが急伸した。

ラガルド総裁が年内の利上げの可能性を否定しなかったことで、ユーロが急伸しており、ユーロドルは1.29台後半から1.14台半ばまで上昇している。こうした流れを引き継ぎ、ユーロドルは上昇基調で推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1300～1.1600ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、7日にスイス1月雇用統計、独12月鉱工業生産指数、8日にカナダ12月貿易収支、9日に独12月貿易収支、独12月経常収支、11日に独1月消費者物価指数、英第4四半期国内総生産（GDP）速報値、英12月鉱工業生産指数、英12月製造業生産指数、英12月貿易収支、スイス1月消費者物価指数などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。